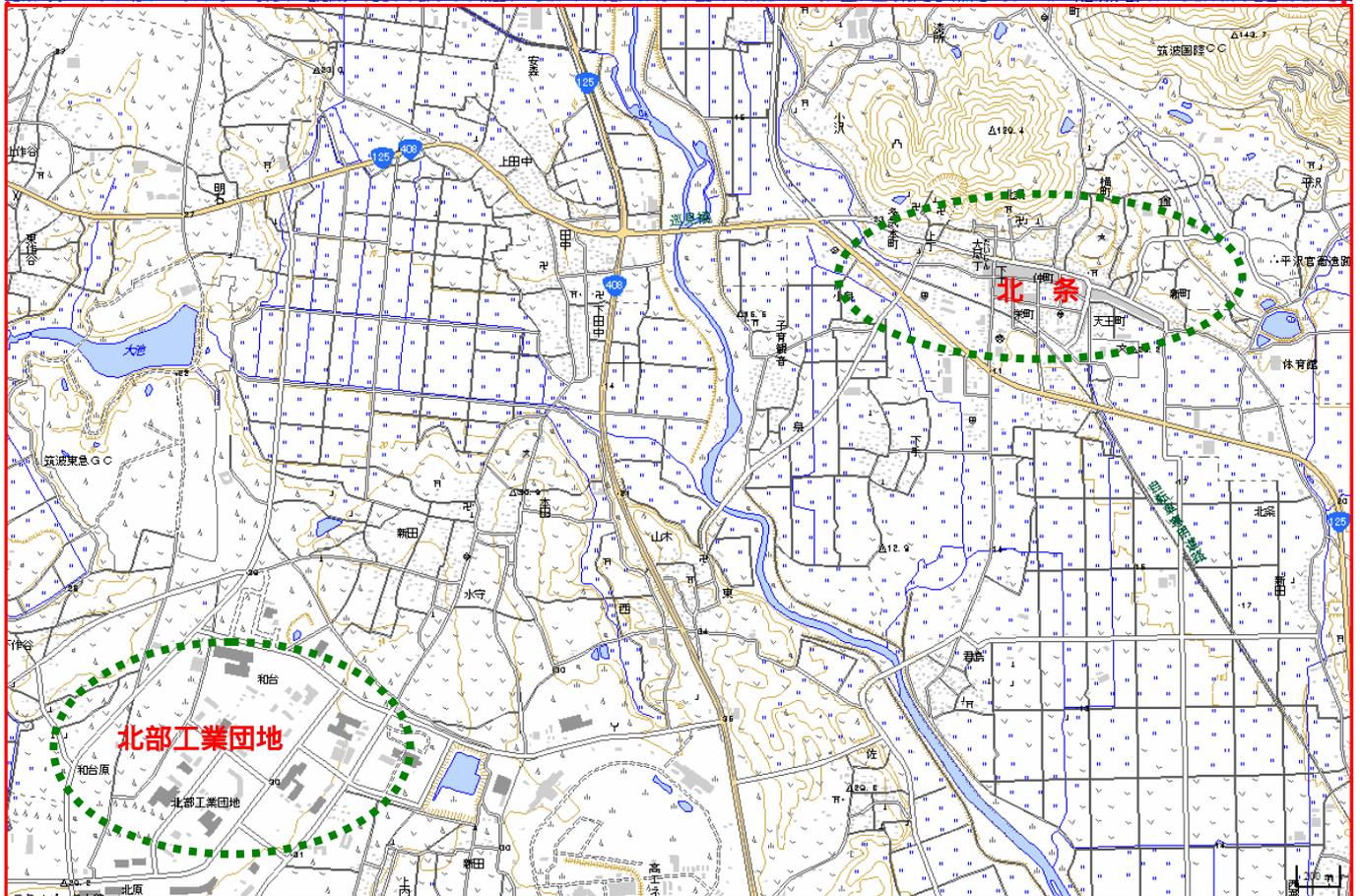
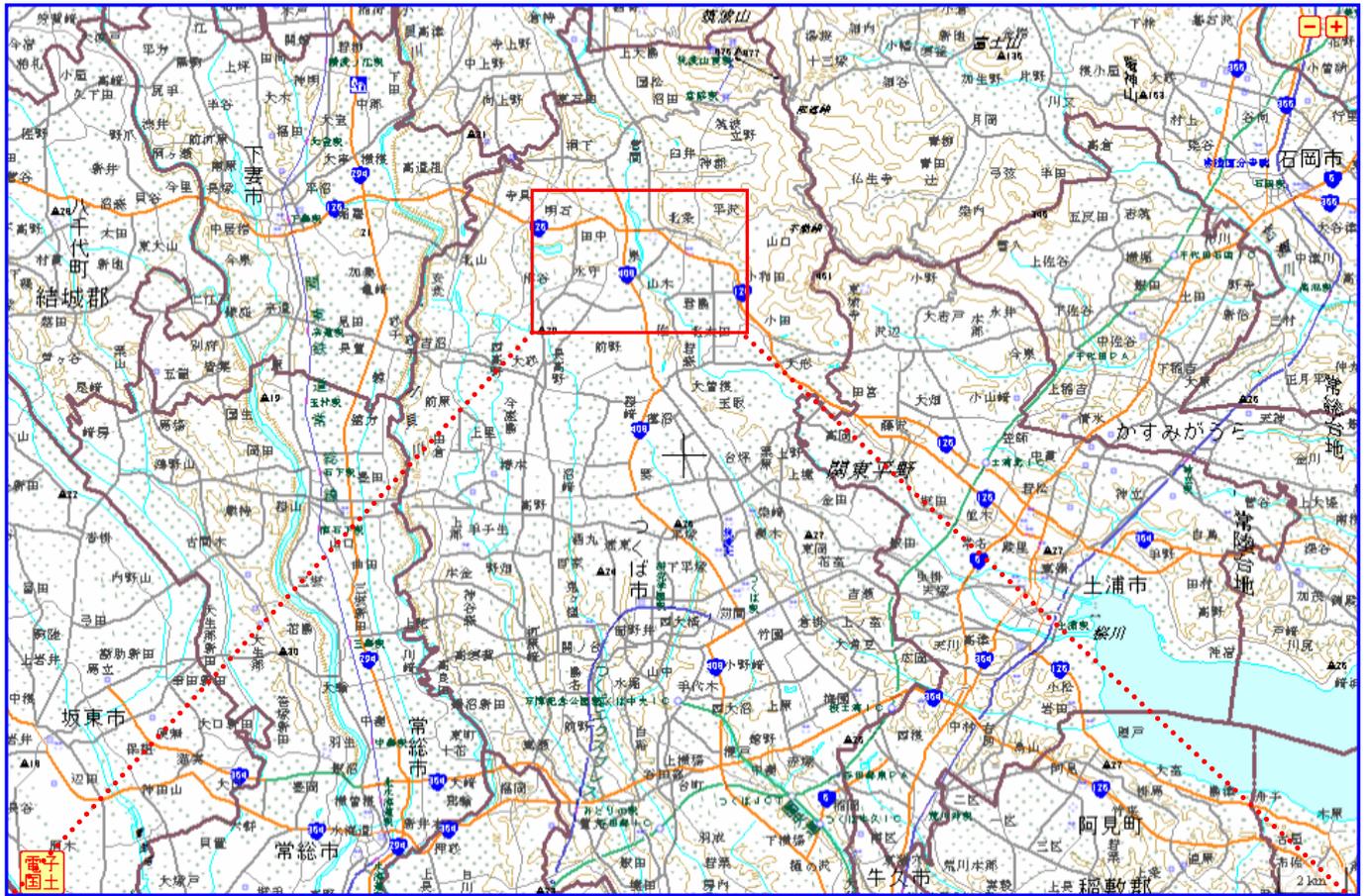


平成 24 年(2012 年)5 月 6 日茨城県つくば市竜巻災害 写真報告

調査日 2012.5.7



竜巻災害は、つくば市北側の北条を中心に発生した。北条は旧筑波町の中心であり、古くは平沢官衙が置かれ、筑波山へ続く”つくば道”上に位置するなど古くから栄えた場所。北部工業団地は、つくば研究学園都市の北端にあたる。

北条の全景



北条の町の北側には小高い城山がある。写真は城山麓から南側の北条中心部を望んだもの。建物の多くは木造瓦葺き、この付近としては一般的な町並である。(右に続く)



(左から続く) 竜巻は写真右奥から左手前へ移動した模様。進路に沿ってブルーシートが見える。大きな被害のあった市営の雇用促進住宅は写真右端のやや外側にある。

市営(雇用促進)住宅の被害



市営の雇用促進住宅は国道125号線に面するように、南向きに「二」の字の様に2棟が並んで建っている。災害は南側の棟の南面に集中している。



竜巻をほぼ正面から受ける形となった南棟南面では、全ての窓が破壊されていた。また手前の駐車場にあった車両も大きな被害を受けていた。



被害の大きかった南棟の北面を望む。南面よりも被害は少ないが、ほとんどの窓ガラスが割れ、下には竜巻に飛ばされた車両が横倒しになっていた。



竜巻の進行方向から見て、南棟の裏にあたる北棟の南面。窓ガラスの割れた部屋もあるが、南棟と比べ被害は少なく、2つの棟や周辺の様子には差がある。

市営（雇用促進）住宅の被害（続き）



市営（雇用促進）住宅と国道 125 号線との間には駐車場があり、ほとんどの報道機関の車両はここに停車していた。



市営の雇用促進住宅南棟の南面直下にあったこの建物は、竜巻により基礎だけを残して吹き飛ばされてしまった。

北条付近の交通規制



北条の町中へつながる道路では、入口の交差点で交通規制が行われていた。



国道 125 号から北条の町へ続く交差点では、警察が交通規制を行っていた。写真右奥が北条の町、左奥へ続く道が国道 125 号。



交通規制に伴い、国道 125 号線では両方向とも長い渋滞が発生していた。



北条の町の東側道路では、通行車両の抑制と速度低下のために、市役所が簡易フェンスを設置し、規制を行っていた。

北条の町及び付近の被害等

(1) 建物被害



全壊した家屋



屋根が飛ばされた家屋



ブロック塀の倒壊



倒壊電柱に直撃された家屋



飛散物による家屋の被害



アパートの被害様子

(2) 施設、構造物等の被害



窓ガラスが破壊された医院



薬局の窓及びシャッター等の被害



ガソリンスタンドの屋根被害



基礎のみ残されている公民館、写真奥の一段高いところにあるのが公民館の建物。



水路を塞いだガレキ



電線に絡まった金属製飛来物

(3) 電柱被害



竜巻が通過した付近では、多くの電柱が折れたり倒れたりしていた。復旧のため多くの業者が活動していた。



途中から、ちぎられた様に切れてしまった電柱。



電柱は、根本から折れたものが多かったが、写真の様に途中から折れたものもあった。

(4) 車・樹木の被害



竜巻の進路上にあった車両は、飛散物により被害を受けたり、巻き上げられ飛ばされたものもあった。



樹木も倒れたり、折れたりしていた。

(5) 住民などによる災害復旧の様子



住民による屋根等の修復作業。



業者による屋根等の修復作業。



片づけ中の休憩。



ガレキの運搬。



お墓の片づけ。



被害の中心部では青年会議所における救援物資の配布が行われた。

行政・取材・視察等



現場を見回っている消防職員



作業中の自衛隊員



被害調査を行っている市役所職員。



現場を回っている市役所職員。



末松内閣府副大臣を団長とする政府調査団の現地視察。



報道機関による取材。

農業への被害



北条の町は霞ヶ浦へつながる桜川沿いにある。付近一帯は広大な水田が広がる地域であり、町のすぐ近くにも水田や畑が広がる。農地も飛散物により被害を受けた。



付近は5月連休前後に田植えを行うことが多く、田植え直後に被災した水田も少なくない。近くを竜巻が通過したこの水田でも、飛散物の除去が懸命に行われていた。

北部工業団地の被害



竜巻に伴う突風等で飛ばされた金属製飛来物。工業団地内の各所に散在していた。



竜巻に伴う突風等で、窓ガラスが割れるなどの被害に遭った工業団地内施設。



樹木の被害が目立った。根ごと倒れるもの、根本で折れたもの、写真の様に裂けたものなど様々であった。

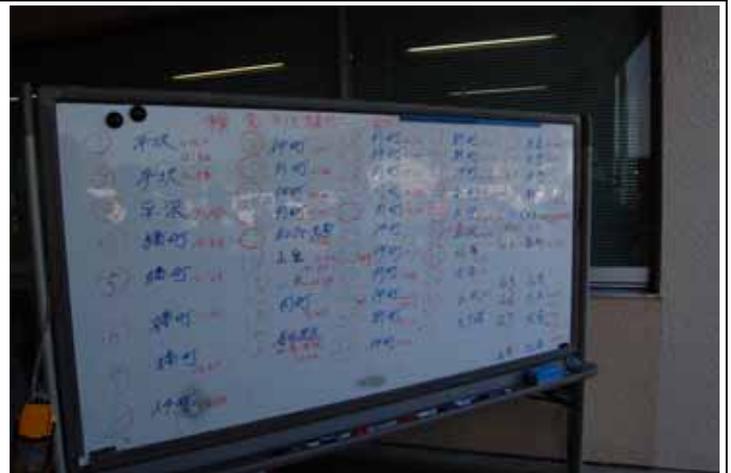


工業団地内は道路幅も広く通行に支障をきたす場所は見られなかったが、各所で飛ばされた樹木を集めるなど、復旧作業が行われていた。

現地災害対策本部（筑波交流センターに設置）



現地竜巻対策本部が設置された筑波交流センターは、筑波町役場、つくば市筑波支所と変遷してきた施設。駐車場には消防本部や自衛隊などの車両が停車していた。



入口では、消防本部と市役所が班編成して実施した被災状況の確認が掲示されており、町ごとに確認時間がかかれていた。



現地災害対策本部内の様子。市役所職員、消防職員、自衛隊員などが詰めていた。

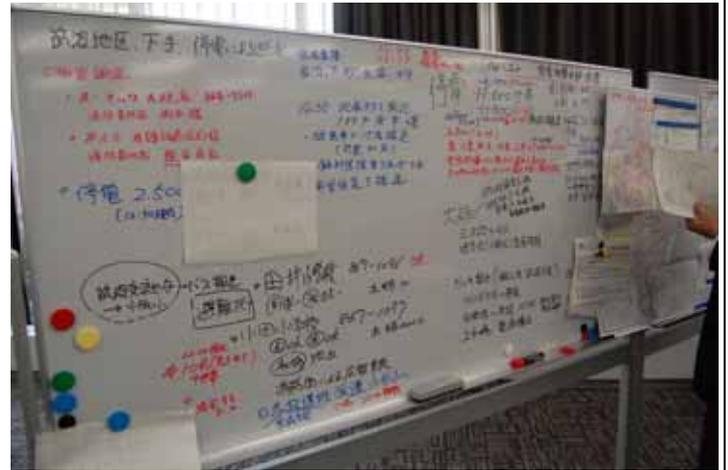


入口左横では、NTTドコモが非常時用携帯電話充電器の無料サービスが提供されていた。

災害対策本部（つくば市役所に設置）



災害対策本部は庁舎2階に設置され、内閣府、総務省消防庁、自衛隊等も参加していた。本部会議は6日3回、7日2回開催された。



災害対策本部では、被災情報整理のためホワイトボード、テレビ、パソコン、プロジェクター等が使用されていた。



災害対策本部室の中央に本部会議の場が設けられ、奥では断続的にミーティング、入口付近では職員により作業が行われていた。



入口脇にはテレビが置かれていた。



災害対策本部横には報道機関待機場所が設置されていた。



市役所2階に設置された災害ボランティアセンター。社会福祉協議会が窓口となっていた。

ご注意：本報告のコメントに記載された情報は調査員の取材によるものであり、精査の後に修正の可能性があります。

以上